

鯨舟競漕にチャレンジ

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

土佐室戸鯨舟競漕大会に参加するなど、地域の自然や文化に触れる活動を通して、青少年の社会性を育む。

○ 実施期間

平成30年7月14日(土)～平成30年7月16日(月) 2泊3日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 38名/定員40名

○ 活動プログラム

7月14日[土]	7月15日[日]	7月16日[月]
15:30 とろむ着	6:00 起床・身支度・更衣	6:00 起床・身支度・更衣
15:35 開講式	7:15 朝のつどい	自主点検・清掃
15:45 鯨舟操船練習(~16:30)	7:30 朝食	7:15 朝のつどい
16:45 とろむ発(所バス)	8:15 自然の家発(所バス)	7:30 朝食
17:30 タベのつどい	9:00 鯨船競漕大会参加	8:30 自然の家発
17:45 夕食	12:00 昼食	8:50 海浜活動センター着
18:30 配宿	14:00 表彰式・閉会式	9:00 シーカヤック
18:45 ベッドメイク	14:15 とろむ発(所バス)	12:00 昼食(弁当)
19:00 入浴	14:45 自然の家着	12:45 閉講式
20:00 旗づくり	15:00 チリメンモンスターをさがせ	13:00 海浜活動センター発
21:00 班会	17:30 タベのつどい	所バス・セレナ
21:30 就寝準備	17:45 夕食	15:00 牟岐駅着
22:00 就寝	19:00 入浴	15:30 はりまや橋観光 BT 着
	20:00 花火見学	15:45 参加者解散
	20:30 班会	
	21:00 就寝準備	
	22:00 就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

今回の「鯨舟競漕にチャレンジ」では、高知・徳島方面の4年生から6年生までの小学生を募集し、計38名が参加することになった。初対面にも関わらず、チームのメンバーと仲良く話す姿が多く見られた。午後の活動は、翌日の大会に向けた鯨舟操船の練習を行った。自然の家からは、3チームが参加することになっているが、初めての練習ということもあり、艀を漕ぐのに苦労していた。夜は、大会当日に使用する旗作りを行った。チームで相談して旗を作ることで、仲間の絆をより深めることができた。班会では、午後の鯨舟操船の反省と明日の大会向けの抱負をふりかえりカードに記入した。



<2日目>

2日目は、快晴の中、鯨舟競漕大会が行われた。当日は非常に熱く、レースまでの待ち時間も長いため、熱中症対策として水分補給を適宜行うようにした。3チームとも、子ども鯨舟レースに参加したが、第1レースはチームグリーンと他団体のサッカーチームであった。昨日の練習では、掛け声も小さく、櫓を漕ぐタイミングも合っていなかったが、本番は、全員が協力し、息を合わせることができ、見事相手チームに勝利した。第2レースは、チームブルーとチームレッドの競漕であった。お互いに、昨日の班会で考えた作戦通り舟を漕ぐことができ、どちらも自己新記録を出すことができた。結果は、第1位から第3位まで、全て自然の家の出場チームとなった。大会後は、マグロの解体ショーで捌いた刺身をおいしくいただいた。午後は、チリメンモンスターをさがす活動をする予定だったが、大会の延長により十分な時間を確保することができず、班ごとの自由時間に変更した。夜間は、室戸市の花火大会を見学した。展示棟から見る大きな花火に、子供達も喜んでいた。



<3日目>

3日目は室戸岬新港のとろむでシーカヤックの活動を行った。3人のパディを組み、速く進むためにはどうすればよいか考えながら活動する中で、協力している姿が見られた。昨日の鯨舟競漕大会とは違い、速さを競う活動ではないので、のびのびと楽しそうにカヤックを漕いでいた。練習時間を十分に確保することで、パドルの扱い方にも慣れ、息を合わせてシーカヤックを上手に操舟することができようになっていた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・鯨舟競漕大会で優勝できてうれしかった。みんなで協力できたのがよかった。
- ・大会を通して、みんなの絆が深まった。
- ・練習の時よりも大きな声が出ていてよかった。

○ 事業の成果

- ・鯨舟競漕大会に参加することで、チームで協力して活動し、仲間との絆を深めることができた。
- ・シーカヤックの活動を通して、パドルの使い方や漕ぎ方を正しく身に付けることができた。
- ・一日の終わりに班での活動を取り入れることで、チームとしてのまとまりを作ることができ、参加者同士の関わりをより深めることができた。

○ 事業の課題

- ・今回は、大会の終了時刻が遅れたため、午後の「チリメンモンスターをさがそう」の活動を行うことができなかった。楽しみにしていた参加者も多数いたため、余裕を持ったスケジュールをとることが必要である。
- ・大会当日は、クーラーボックスに入れた氷や飲料水を準備し、熱中症対策を行ったが氷が不足した。次年度は、不足しないように、十分な量を予め確保しておきたい。